

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

平成 30(2018)年度より届出にて設置しようとするスポーツマネジメント学部（入学定員 255 人）は、現行の体育学部社会体育学科（入学定員 195 人）を基礎として、現行社会体育学科のコースであるスポーツマネジメントコースをスポーツマネジメント学科（入学定員 145 人）に、生涯スポーツコースをスポーツライフマネジメント学科（入学定員 110 人）に改編するものである。

従って、ここではまず、既設社会体育学科を含む体育学部入学試験の概略（学生確保に向けた入試制度の改善）について確認し、続いて当該 2 学科（スポーツマネジメント学科及びスポーツライフマネジメント学科）における入学定員設定の考え方（充足の見込み）を示すこととする。

a. 既設体育学部入学試験の概略（学生確保に向けた入試制度の改善）

平成 5(1993)年度入試の 18 歳（受験生）人口のピークを境に、本学体育学部志願者も僅かな増減を繰り返しながら、平成 21(2009)年度入試では、総志願者数が 3,213 人まで落ち込んだ。これは、ピーク時であった平成 5(1993)年度 6,988 人の約 54%で、志願者数の増員が喫緊の課題となった。

これまで、本学体育学部入学試験は、推薦入試（主としてスポーツ推薦）と一般入試（2 月実施のみ）を大きな柱として実施されてきた。しかしながら、近年、体育及びスポーツに対する時代、社会のニーズの高まりにあわせて、多くの大学が同系統の学部・学科の新增設を積極的に進めてきた。

18 歳人口の減少や大規模総合大学による体育、スポーツ系学部等の設置など、本学体育学部が直面する学生確保の課題に対し、平成 24(2012)年度入試より、受験機会の拡大と新たな受験者層の獲得を目的とした入試制度の改善に着手した。

その主な取り組み（改善点）は、以下の通りである。

【平成 24 年度入試】

- ①一般入試において、3 月に実技試験を課さない選抜区分（筆記試験のみ）を新たに導入した。〔一般入試 B 方式〕
- ②地方から優秀な高校生を誘うべく、AO 入試において、関東 1 都 6 県を除く、40 道府県の受験生を対象とした選抜区分を新たに導入した。〔地域ブロック AO 入試〕
- ③プロスポーツ選手等を対象に、そのセカンドキャリア形成の支援を目的とした選抜区分を新たに導入した。〔リカレント入試〕

【平成 25 年度入試】

- ①推薦入試において、日々の学習、クラブ活動に積極的に取り組み、文武両道を体現する高校生を対象とした選抜区分を新たに導入した〔一般推薦入試〕

【平成 26 年度入試】

- ①一般入試において、受験生の負担を軽減するため実技試験の種目数と配点を変更し

た。〔筆記試験（国語、英語計 200 点）、実技試験（50m 走、上体起こし計 100 点）〕

- ②一般入試において、受験に伴う経済的負担の軽減を目的とした地方入試を新たに導入した。〔サテライト会場として、名古屋、大阪、福岡にて実施〕

【平成 27 年度入試】

- ①2 月実施の一般入試において、実技試験を課さない選抜区分（筆記試験のみ）を新たに導入した。〔一般入試（全学統一日程）、他学部と同日実施〕
- ②2 月実施の一般入試において、従来通り、筆記試験と実技試験とを課す選抜区分を設定した。〔一般入試前期（学部個別日程）として 2 日間にわたって実施〕
- ③地方入試（サテライト会場）に札幌、仙台を加え、一般入試の他、AO 入試（学科 AO 入試一次選考）においても新たに実施した。
- ④優れたアスリートを積極的に受け入れるトップアスリート AO 入試の受験機会と対象競技種目を拡大した。〔トップアスリート AO 入試Ⅱ期（3 月実施）の設定と新体操等の追加〕

【平成 28 年度入試】

- ①2 月実施の一般入試（学部個別日程）では、選抜方法を細分化し、ひとつは実技試験を課さない「筆記型」、もう一つは筆記試験及び実技試験による「筆記＋実技型」を新たに設定した。
- ②一般入試前期（全学統一日程）及び学科 AO 入試一次選考の地方入試（サテライト会場）に高崎（群馬県）を新たに追加した。

【平成 29 年度入試】

- ①全入試において募集人員を各入試区分及び学科ごとに明記した。
- ②一般入試前期（学部個別日程）〔筆記型〕において、サテライト会場（札幌、仙台、高崎、名古屋、大阪、福岡）を新たに追加した。
- ③IB 資格（国際バカロレア資格）入試を新たに導入した。
- ④英語外部資格入試を新たに導入した。

こうした取り組み（改善）により、既設体育学部の入学試験は、大きく次のように分類される。

◆将来の展望や熱意を評価する入試

- ①学科 AO 入試、②地域ブロック AO 入試、③併設校 AO 入試

◆基礎学力を評価する入試

- ①一般入試前期（全学統一日程）、②一般入試前期（学部個別日程：筆記型）
③一般入試後期

◆基礎学力、運動能力を評価する入試

- ①一般入試前期（学部個別日程：筆記＋実技型）

◆充実した高校生活（日々の学習、クラブ活動への取り組み）を評価する入試

- ①一般推薦（推薦入試）、②指定校推薦（推薦入試）

◆スポーツの実績を評価する入試

- ①トップアスリート AO 入試（Ⅰ・Ⅱ期）、②スポーツ推薦（推薦入試Ⅰ・Ⅱ期）

◆その他の入試

- ①帰国生入試、②外国人留学生入試、③リカレント入試、④飛び入学入試
⑤IB 資格（国際バカロレア資格）入試、⑥英語外部資格入試

このように多様な人材を積極的に受け入れるべく、入学試験における評価の尺度（選抜区分）を多数設定したことにより、平成 24(2012)年度入学試験以降、受験生は 4,000 人台にまで回復した。これ以降、増加を続け、志願者総数は直近の平成 29(2017)年度入試で、4,482 人となった。

b. 各学科（新設学科）における入学定員設定の考え方（充足の見込み）

既設社会体育学科における過去 5 か年間（2012 年～2016 年）の志願状況をみると、志願者総数の平均は 955 人（最高 1,067 人、最低 849 人）、入学定員に対する平均倍率は約 5.71 倍と入学定員をはるかに超える志願者数を確保できる見込みである。

次項イ(1)で説明【資料 1】

一方、平成 26(2014)年度の学校基本調査によれば、過去 5 年間の体育・スポーツ系統学部の志願者数は、平成 22(2010)年度以降、40,591 人、45,724 人、47,581 人、52,646 人、52,649 人、と増加しており、一定規模の需要が確認できる。

次項イ(2)で説明【資料 2】

また、全国体育スポーツ系大学協議会に加盟する 39 大学について、平成 24(2012)年度以降の志願者数をみると、55,755 人、63,130 人、62,899 人、64,560 人、65,917 人、と推移し、入学定員（11,158 人、11,840 人、12,220 人、12,281 人、13,156 人）に対する志願倍率も 5 倍超を推移している。**次項イ(3)で説明【資料 3】**

従って、以下のように選抜区分毎の志願者数をみても、安定的に一定数の受験生が確保できていると言える。

【学科 AO 入試】

過去 5 か年間の志願状況をみると、その平均は 92 人（88～100 人で推移）、合格者の入学手続率（歩留率）は、平均 99%で平成 24(2012)年度の 95%を除けば、100%である。本学科を第一志望とすることを出願要件として明記していることにも因るが、受験生の進学意欲（入学意志）の高さをここから確認することができる。

【推薦入試】

過去 5 か年間の志願状況をみると、その平均は 42 人（37～55 人で推移）、合格者の入学手続率（歩留率）は、平均 99%で平成 27(2015)年度の 96%を除けば、100%である。本学科を第一志望とする受験生を対象としており、この結果は、本学がこうした受験生のニーズにも充分対応できる学修環境を整備しているというひとつの証左である。

【一般入試】

過去 5 か年間の志願状況をみると、その平均は 794 人（692～895 人で推移）、合格者の入学手続率（歩留率）は、平成 24(2012)年度の 49%を除けば、59～69%で推移しており、一般入試においても十分な入学者の確保が見込める。

こうした既設社会体育学科（入学定員 195 人）の近年の入試志願者状況、手続状況等の動向を基に、現行社会体育学科のスポーツマネジメントコースをスポーツマネジメント学科（入学定員 145 人）に、生涯スポーツコースをスポーツライフマネジ

メント学科（入学定員 110 人）に改編し定員を 255 人としても、十分に学生確保と教育展開が可能であると判断する。

c. 地域的市場の状況からみた学生確保の見込み

本学体育学部における平成 28(2016)年度入試の一般入試志願者は 3,160 人で、そのうち、首都圏（1 都 6 県）の志願者は 2,398 人で全体の 75.9%を占めており、本学受験生の市場は、その大半が首都圏（1 都 6 県）にあると言える。

次項イ(4)で説明【資料 4】

また、平成 27(2015)年度学校基本調査によれば、首都圏（1 都 6 県）の生徒在籍率は全体の 31.0%を占め、その進学率も 55.0%にのぼる。次項イ(5)で説明【資料 5】

このことから、本学体育学部一般入試の志願者が首都圏（1 都 6 県）に集中していることも勘案して、今後も安定的に学生確保が可能であると判断される。

一方、平成 27(2015)年度入試より、受験に伴う志願者の経済的負担を軽減すべく、全ての学部の学科 AO 入試（一次選考）及び一般入試前期（全学統一日程）で、本学会場（健志台キャンパス）の他に全国主要都市（5 か所）をサテライト会場とするいわゆる地方入試を実施することとした。平成 28(2016)年度はサテライト会場にさらに 1 都市追加し地方入試を実施した。次項イ(6)で説明【資料 6】

更に、本学には高等学校（4 校）が併設されており、この 4 校から体育学部各学科を第一志望とする学生を積極的に受け入れている。この併設校出身者を対象とした AO 入試（併設校 AO 入試：募集人員 30 人）と推薦入試（指定校推薦：募集人員 50 人）では、本学体育学部への進学希望者が近年増加傾向にあり、今後もこの傾向が続くものと考えられる。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

高校 2 年生へのアンケート調査を一般財団法人日本開発構想研究所に依頼した。調査時の説明及び質問項目は【資料 7】、学部の概要説明は【資料 8】のとおりである。

アンケートの調査概要について、調査期間は平成 28(2016)年 11 月下旬から平成 29(2017)年 1 月上旬の約 2 ヶ月間である。調査対象は、本学の系列校及び本学体育学部において志願実績がある高校 24 校 9,850 人で、そのうち 19 校から回答を得ることができた。回収数は 4,965 枚であった。

調査方法は託送調査法で、各高校の教員が各校で高等学校 2 年生を対象にアンケート調査票を配布の上、回答後その場で回収する、集合調査法にて調査を行った。回収されたアンケートは 4,965 件（回収率 50.4%）、有効回答数は 4,944 件、有効回答率は 50.2%であった。

調査内容は全 8 問で、主な質問項目は「興味のある高校卒業後の進路」、「興味のある分野」、「『スポーツマネジメント学部(仮称)』に対する興味・関心」、「進学希望の学科」などである。【資料 9】

「興味のある高校卒業後の進路」【表 1】では「四（六）年生大学」と回答した学生が最も多く、3,920 人（79.3%）であった。また、「興味のある分野」では、「スポーツ・健康科学」の「第一希望」が 920 人（18.6%）第 1 位【表 2】、「第二希望」が 650 人（13.1%）第 2 位【表 3】、「第三希望」が 521 人（10.5%）第 3 位【表 4】と、

「スポーツ・健康科学」分野への進学意欲が多く見られた。

次に「進学先を選択する際に重視する事柄」では最も高い値を示したのは「学部・学科の専攻分野」2,880人（58.3%）【表 5】で、次いで「学費（入学金・授業料）」1,881人（38.0%）、「就職実績」1,686人（34.1%）、「資格を取得できる」1,606人（32.5%）と学部・学科の専攻分野や就職実績、資格などを重視している学生が多く見られた。

また、「スポーツマネジメント学部に対する興味・関心」【表 6】では、「興味・関心をもった」686人（13.9%）、「やや興味・関心をもった」1,033人（20.9%）と1,719人（34.8%）の学生が興味・関心を示した。

このうち、第一希望の「新学科への進学希望」【表 7】では、「スポーツマネジメント学科に進学したい」927人（53.9%）、「スポーツライフマネジメント学科に進学したい」310人（18.0%）であった。

また、第二希望の「新学科への進学希望」【表 8】では、「スポーツライフマネジメント学科に進学したい」887人（51.6%）、「スポーツマネジメント学科に進学したい」335人（19.5%）と、日本体育大学が構想中であるスポーツマネジメント学部、スポーツマネジメント学科及びスポーツライフマネジメント学科への進学希望は、予定定員数の255人をはるかに上回る予測となった。

(1) 資料 1「日本体育大学過去5年間の志願者数」

- ・平成 24(2012)年から平成 28(2016)年の 5 年間の本学全学部の入試の志願者数を学部・学科別に集計したものである。

(2) 資料 2「体育・スポーツ系統学部志願者数」

- ・平成 24(2012)年から平成 28(2016)年の 5 年間の文部科学省『学校基本調査年次統計「学部別高校卒業年別 入学志願者数」』より、体育・スポーツ系統学部の志願者数を集計したものである。

- ・対象学部は「体育」または「スポーツ」の名称を持つ学部とした。

(3) 資料 3「全国体育スポーツ系大学協議会加盟大学入試状況」

- ・平成 24(2012)年から平成 28(2016)年の 5 年間の一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会に加盟(39 大学)する大学の入試状況である。

- ・一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会に加盟する大学を競合校として設定した。

全国体育スポーツ系大学協議会に加盟する 39 大学について、平成 24(2012)年度以降の志願者総数をみると、55,755 人、63,130 人、62,899 人、64,560 人、65,917 人と推移し、入学定員(11,158 人、11,840 人、12,220 人、12,281 人、13,156 人)に対する倍率も約 5 倍を維持している。

(4) 資料 4「一般入試における首都圏志願者の状況」

- ・平成 24(2012)年から平成 28(2016)年の 5 年間の本学体育学部における一般入試の首都圏の志願者数を集計したものである。

(5) 資料 5「首都圏及びそれ以外の生徒数と進学率」

- ・平成 19(2006)年から平成 27(2015)年の 10 年間に公表された文部科学省『学校基本調査』における高等学校全日制の「学生別生徒数」及び「都道府県別大学・短期大学等への進学者数」を集計したものである。

(6) 資料 6「平成 28(2016)年度入試サテライト会場実施状況」

- ・平成 28(2016)年度入試で実施したサテライト会場(札幌・仙台・高崎・名古屋・大阪・福岡)の体育学部の学科毎の志願者数等を集計したものである。

こうした状況に鑑み、体育学部社会体育学科を基礎として新たに設置しようとするスポーツマネジメント学部（入学定員 255 人）では、既設社会体育学科の入学定員（195 人）のうち、現行社会体育学科のスポーツマネジメントコースをスポーツマネジメント学科（入学定員 145 人）に、生涯スポーツコースをスポーツライフマネジメント学科（入学定員 110 人）に改編する。

②学生確保に向けた具体的な取組状況

(1)大学（キャンパス）見学の受入

高校生（受験生）や本学卒業生（主として中学・高校教員）等の要望に応え、本学キャンパス（東京・世田谷、横浜・健志台）の見学を積極的に受け入れている。この取り組みは、本学体育学部はもとより、他の体育・スポーツ系統学部等への進学を希望している受験生（保護者、教員など）を対象に、教職員が直接、学内諸施設を案内するものである。平成 23(2011)年には 88 校 1,805 人の見学者が平成 27(2015)年には 111 校 2,512 人と確実に増加していることから、志願者数の増加が見込まれるとともに、安定的に学生確保が期待できる。【資料 10】

(2)オープンキャンパスの開催

オープンキャンパスは、東京・世田谷キャンパス及び横浜・健志台キャンパスで年間計 7 回実施している。受験生（高校生）、その保護者や教員に対して、学問分野や学生生活を紹介し、本学への理解を深めるためのプログラムが組まれている。平成 18(2006)年度の参加者は 3,092 人であったが、平成 28(2015)年度は 9,354 人と増加している。

このうち高校生の参加者数は 6,643 人にのぼり、志願者数の維持・増加が見込まれるとともに、安定的に学生の確保が見込まれる。【資料 11】

(3)学外進学説明会への参加（派遣）

学外において実施される進学説明会（高等学校や業者主催）への参加依頼件数は、近年増加傾向にある。

これに対して、平成26(2014)年度より全ての事務職員が積極的に関わることとなり、部署や役職を問わず、学生募集活動に参画している。

その結果、高等学校が主催する説明会には、平成28(2016)年には387件（2012年494件、2013年451件、2014年540件、2015年574件）も対応することができ、さらに全国各地で開催される進学相談会（業者主催）でも平成28(2016)年には67会場（2012年77件、2013年60件、2014年78件、2015年65件）に本学事務職員を派遣した。【資料12】 【資料13】

(2) 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

スポーツマネジメント学部では、スポーツを取り巻くさまざまな経済的価値を俯瞰し、スポーツの経済的活動の支援などに従事しうる人材を養成するほか、全ての人々の豊かなスポーツライフの実現に向けて、多様な現状と課題を踏まえ、ライフステージに応じたス

スポーツ活動を推進することのできる人材を養成する。

上記の目的を達成するために、スポーツマネジメント学部は、以下の2学科をもって構成する。

◆スポーツマネジメント学科の特色

スポーツマネジメント学科は、スポーツを取り巻くさまざまな経済的価値を俯瞰し、スポーツイベントやスポーツ施設経営などの事業にビジネスチャンスを見つけ出し、スポーツ奨励・促進のための活動を支援することのできる人材を養成する。

具体的には、教育課程は学部専門基幹科目として、「スポーツマネジメント概論」、「スポーツ社会学」、「スポーツ政策学」、「アンチ・ドーピング」を配置し、スポーツマネジメント学科の学科基幹科目として、「スポーツマネジメント論」、「スポーツマーケティング論」、「スポーツ産業論Ⅰ」、「スポーツビジネス論」を配置した。

加えて、学科展開科目として、「ファシリティマネジメント論」、「レジャーマネジメント論」、「メガスポートイベント論」、「スポーツ行政」を配置し、より具体的な理論学習を可能とした。

また、各種のスポーツ事業と連携し、新たな価値を創造するために、当該産業の事業をマネジメントしうる知識と技術を習得させるためのより実践的な取り組みとして、「地域スポーツ演習」と「地域ボランティア実習」、「スポーツ現場演習」と「スポーツビジネス現場実習」を基幹実践科目として配置した。

◆スポーツライフマネジメント学科の特色

スポーツライフマネジメント学科の特色は、すべての人々に生涯にわたって心身の健康な生活を提供し、かつ健康寿命の延伸を図ることを目的に、ライフステージに応じてスポーツや運動を処方し、競技スポーツだけでなく健康スポーツを自ら示範して指導することのできる人材を養成する。

具体的には、教育課程は学部専門基幹科目として、「スポーツマネジメント概論」、「スポーツ社会学」、「スポーツ政策学」、「アンチ・ドーピング」を配置し、スポーツライフマネジメント学科の学科基幹科目として、「スポーツライフマネジメント論」、「野外教育概論」、「レクリエーション概論」、「障害者スポーツ論Ⅰ」を配置した。

加えて、学科展開科目として、「野外活動論」、「スポーツ行政」、「ファシリティマネジメント論」、「現代の子どもと社会教育」、「生涯学習概論」、「レジャーマネジメント論」を配置し、より具体的な理論学習を可能とした。

また、国民の健康に資するスポーツの技術指導のみならず、スポーツによるコミュニティを形成しうる知識と技術を習得させるためのより実践的な取り組みとして、「地域スポーツ演習」と「地域ボランティア実習」、「障害者スポーツ現場実習」、「レクリエーション現場実習」、「野外活動現場実習」を基幹実践科目として配置した。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

◆スポーツを通じた経済・地域の活性化に対するニーズ

平成29(2017)年3月1日に出された「第2期スポーツ基本計画」では、スポーツの成長産業化として、「スポーツ市場を拡大し、その収益をスポーツ環境の改善に還元し、スポーツ参画人口の拡大につなげるという好循環を生み出すことにより、スポーツ市場規模

5.5兆円を平成32(2020)年までに10兆円、平成37(2025)年までに15兆円に拡大することを旨とする」としている。

また、スポーツを通じた地域活性化として、「スポーツツーリズムの活性化とスポーツによるまちづくり・地域活性化の推進主体である地域スポーツコミッションの設立を促進し、スポーツ目的の訪日外国人旅行者数を250万人程度（平成27(2015)年度現在138万人）、スポーツツーリズム関連消費額を3,800億円程度（平成27(2015)年現在2,204億円）、地域コミッションの設置数を170（平成29(2017)年1月現在56）に拡大することを旨とする」としている。

このようなスポーツ産業への期待は大きいものであり、「スポーツ未来開拓会議の中間報告」でも示されているように、その人材の育成・確保は急務であるとされている。現状では、スポーツコンテンツの多様な産業的価値を認識しながらも、競技団体などのスポーツ団体がその価値を生かした組織経営ができていないことを指摘し、スポーツマーケティング活動やガバナンスの向上、スタジアムの組織運営、興行などで必要となる様々な専門性のある人材、それらを総合的にマネジメントする経営人材が各団体等に圧倒的に不足していることを挙げている。

その要因として大学で座学としてマネジメントの知識を学んでも、スポーツ現場の実態に触れるような内容で行われるものが十分ではないとし、即戦力としてスポーツ界で活躍できる人材育成に向けての充実が求められている。

◆スポーツマネジメント学部の学生に対する企業からのニーズ

(1) スポーツマネジメント学科

スポーツマネジメント学科では、スポーツビジネス現場演習でスポーツ現場の基礎を学ぶ。具体的には、スポーツ用品やスポーツ施設、スポーツイベントなどの各種スポーツサービスが提供される現場は、人々のスポーツライフに直接的に影響を及ぼす場であり、この授業ではスポーツビジネスの現場における販売計画や実施計画などを企画・立案する。人々の豊かなスポーツライフ構築に貢献するために自らが担うべき役割を理解したうえで、想定される課題への対処法を見出し、PDCAサイクルに基づいて計画の評価及び改善を繰り返していく方法について学ぶ。スポーツサービスのプロバイダーとしての資質と能力を高め、スポーツビジネスの現場で即戦力として活躍できる人材を育てる。

加えて、スポーツビジネス現場実習では、スポーツ用品販売やスポーツ施設営業、スポーツイベントなど、スポーツビジネス現場への参加を通じて、顧客のニーズやスポーツ関連企業の経営戦略について学び、スポーツマネジメントの実践力を高め、スポーツビジネス現場の課題を発見し、それに対処していくことで、スポーツの価値を高め、スポーツビジネスの実践現場を経験することで、社会で求められる人材について理解し、卒業後に自らが目指す姿を明確に認識できるようになるなど、キャリア形成支援の学修となる。

上記のことを踏まえて、企業・財団などからスポーツビジネス現場実習における33団体、213人の受け入れの承諾を得ることができた。**【資料14】**

(2) スポーツライフマネジメント学科

スポーツライフマネジメント学科では、地域スポーツ演習で地域スポーツ現場の基礎を学ぶ。具体的には、さまざまな地域課題の解決につながるスポーツイベントを企画・立案していく。地域スポーツイベントの運営には、参加者（実施者、観戦者）だけでなく協力

企業、ボランティアスタッフ、行政機関などさまざまなステークホルダーが関係している。そのため、この授業を通じて地域スポーツイベントにおけるステークホルダーのニーズを調整しながら、スポーツイベントの目的を通じて、スポーツイベントマネージャーの役割について学修し、計画に基づいてイベントを実施していくにあたり必要となる自覚と心得を養う。

加えて、地域ボランティア実習では、地域住民を対象としたスポーツイベントなどの行事にボランティアスタッフとして参加することで、イベント運営の現場について学ぶ。地域の方々との交流を通じて、多様な人々によって形成される地域コミュニティの姿を実感し、地域が抱える課題についても実践的に理解する。その上で地域でのイベントに地域課題の解決の糸口を見出し、その効果を高めるためのマネジメントについて学んでいく。また、実践的な学びを通じて将来の地域社会におけるリーダーとなり得るための資質と能力を養うとともに、卒業後に地域で活躍する自らの姿をイメージできるようになるなど、キャリア形成支援の学修となる。

上記のことを踏まえて、地域ボランティア実習先として、本学東京・世田谷キャンパス、横浜・健志台キャンパスで行われる「パブリックビューイング」や「健康・体力測定」、地域で行われるスポーツイベントへのボランティアを行う。

その他の現場実習は次の通りである。

①障害者スポーツ現場実習 **【資料 15】**

何らかの障害がある人々がスポーツを実践している場に赴き、活動を支援する経験や体験を積むことをねらいとしている。

②レクリエーション現場実習 **【資料 16】**

誰もが楽しみながら継続してできるスポーツ・レクリエーション活動への取り組みや事業について理解し、支援の現場を通じて指導者・支援者に求められるスキルを高めることをねらいとする。

③野外活動現場実習

野外活動の基礎的な知識と理解を身につけ、指導者として必要な資質を高めるために、スポーツマネジメント学部において開設している各種野外実習現場（マリンスポーツ、ウォーターセーフティ、キャンプ、ゴルフ、スキー、スケート）における指導経験を蓄積し、質の高い指導者を目指して体験的に学習することを目的とする。

以上のように、本学が平成 30(2019)年度 4 月に設置構想中であるスポーツマネジメント学部における卒業生の人材需要の見通しは十分にあると推察され、上述したようなニーズに応えることのできる専門家を育成する意義は高いといえる。

資 料 目 次

- 【資料 1】 日本体育大学 過去 5 年間の志願者数
- 【資料 2】 体育・スポーツ系統学部志願者数
- 【資料 3】 全国体育スポーツ系大学協議会 加盟大学入試状況
- 【資料 4】 一般入試における首都圏志願者の状況（平成 24 年度～平成 28 年度）
- 【資料 5】 首都圏及びそれ以外の生徒数と進学率
- 【資料 6】 平成 28(2016)年度入試サテライト会場 実施状況
- 【資料 7】 スポーツマネジメント学部に関するアンケート [調査票]
- 【資料 8】 スポーツマネジメント学部に関するアンケート [学部の概要説明]
- 【資料 9】 スポーツマネジメント学部に関するアンケート [集計表]
- 【資料 10】 大学（キャンパス）見学受入れ状況
- 【資料 11】 オープンキャンパス参加者年度推移
- 【資料 12】 高等学校進学説明会依頼状況
- 【資料 13】 会場形式進学説明会依頼状況
- 【資料 14】 スポーツビジネス現場実習 実習施設一覧
- 【資料 15】 障害者スポーツ現場実習 大会等一覧
- 【資料 16】 レクリエーション現場実習 実習施設一覧

日本体育大学
過去5年間の志願者数

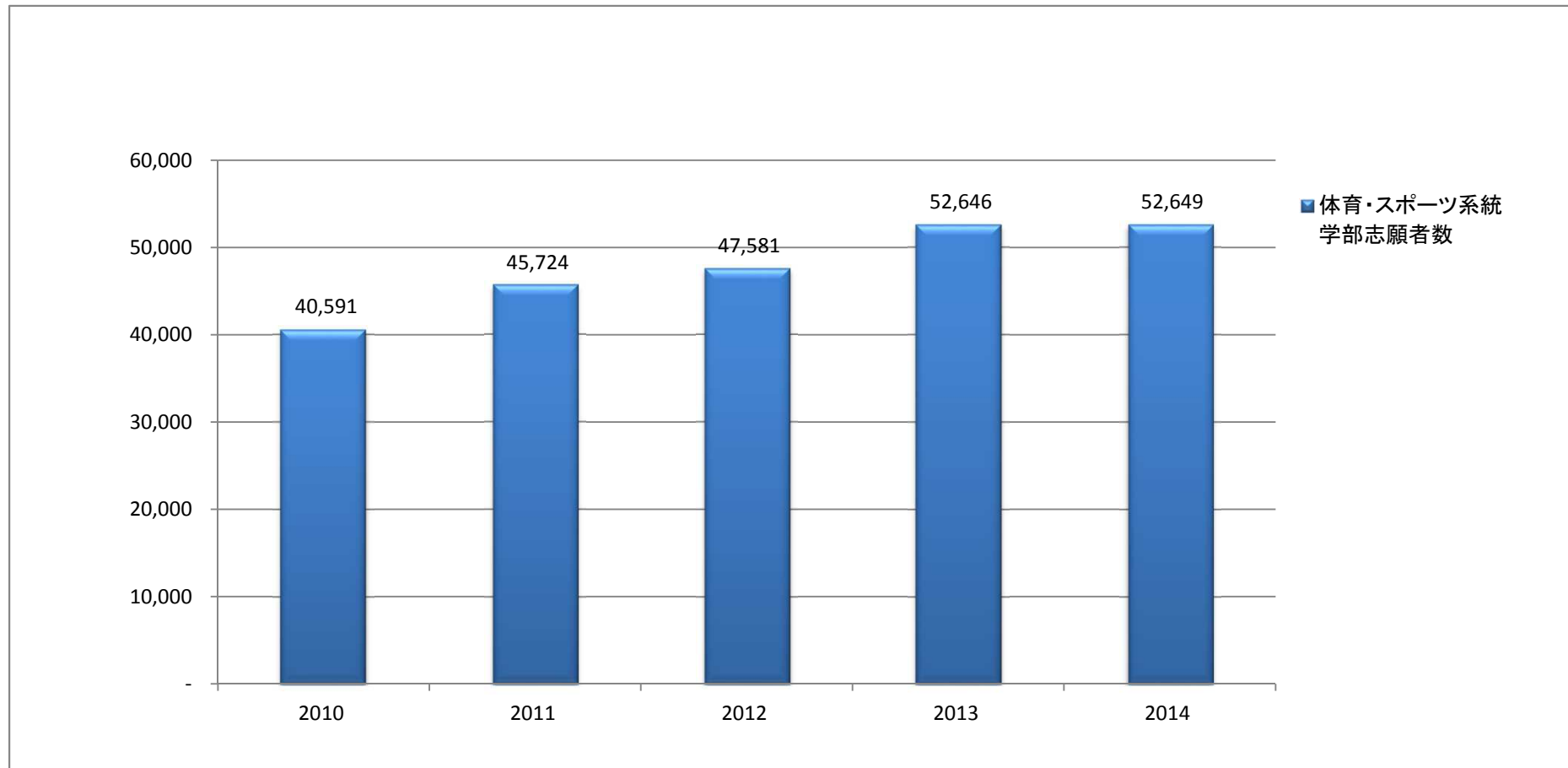
学部名	学科名	年度	定員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	定員超過率
体育	体育	H28	750	2,660	2,603	949	818	1.09
		H27	620	2,520	2,472	830	746	1.20
		H26	620	2,445	2,402	799	746	1.20
		H25	620	2,989	2,940	798	762	1.23
		H24	620	2,392	2,363	974	840	1.35
	健康	H28	195	767	746	273	197	1.01
		H27	160	934	911	267	195	1.22
		H26	160	652	643	245	211	1.32
		H25	160	679	672	241	195	1.22
		H24	160	618	604	287	197	1.23
	武道	H28	120	239	233	152	147	1.23
		H27	120	222	218	156	147	1.23
		H26	120	216	212	150	146	1.22
		H25	120	228	226	151	147	1.23
		H24	120	207	205	154	146	1.22
	社会体育	H28	195	1,067	1,038	254	196	1.01
		H27	160	1,062	1,041	261	195	1.22
		H26	160	849	832	264	197	1.23
		H25	160	945	933	282	193	1.21
		H24	160	850	844	338	193	1.21
児童スポーツ教育 平成25年4月開設	児童スポーツ教育学 科 児童スポーツ教育コース	H28	150	723	690	220	154	1.03
		H27	150	748	721	207	157	1.05
		H26	150	758	740	228	154	1.03
		H25	150	362	340	176	160	1.07
		H24	－	－	－	－	－	－
	児童スポーツ教育学 科 幼児教育保育コース	H28	50	174	172	61	50	1.00
		H27	50	158	152	61	51	1.02
		H26	50	218	213	57	52	1.04
		H25	50	56	55	54	51	1.02
		H24	－	－	－	－	－	－
保健医療 平成26年4月開設	整復医療	H28	90	214	207	113	99	1.10
		H27	90	177	170	108	99	1.10
		H26	90	129	126	121	99	1.10
		H25	－	－	－	－	－	－
		H24	－	－	－	－	－	－
	救急医療	H28	80	143	133	104	86	1.08
		H27	80	179	166	111	86	1.08
		H26	80	119	111	109	88	1.10
		H25	－	－	－	－	－	－
		H24	－	－	－	－	－	－

※半角英数で入力

※小数第3位以下は切り捨て

体育・スポーツ系統学部志願者数

資料2



※文部科学省：学校基本調査年次統計 「学部別 高校卒業年別 入学志願者数」 平成22年～平成26年参照。

※2015年以降 「学部別 高校卒業年別 入学志願者数」 の調査項目はない。

※体育・スポーツ系統学部志願者数は、「体育」または「スポーツ」の名称を持つ学部を抽出し集計。

全国体育スポーツ系大学協議会 加盟大学入試状況

資料 3



※全国体育スポーツ系大学協議会に加盟する39大学の関係学部・学科入試情報を参照し集計。

一般入試における 首都圏志願者の状況
(平成24年度～平成28年度)

資料 4

No.	地域名	都道府県	志願者															エリア別計
			H24(2012) B方式を含む			H25(2013) B方式を含む			H26(2014) B方式を含む			H27(2015) 後期を含む			H28(2016) 後期を含む			
			現役	既卒・他	計	現役	既卒・他	計	現役	既卒・他	計	現役	既卒・他	計	現役	既卒・他	計	
01	北海道	北海道	30	11	41	44	14	58	32	2	34	27	4	31	36	8	44	44
02	東北地方	青森	15	0	15	8	3	11	2	0	2	10	0	10	14	5	19	116
03	東北地方	岩手	28	2	30	9	2	11	4	0	4	13	5	18	19	0	19	
04	東北地方	宮城	13	7	20	35	11	46	11	7	18	31	1	32	17	7	24	
05	東北地方	秋田	15	1	16	10	4	14	12	0	12	4	0	4	11	3	14	
06	東北地方	山形	11	6	17	16	0	16	8	0	8	16	0	16	7	3	10	
07	東北地方	福島	25	9	34	55	7	62	24	8	32	40	6	46	25	5	30	
08	関東地方	茨城	70	14	84	106	8	114	89	24	113	109	26	135	72	18	90	180
09	関東地方	栃木	22	4	26	60	2	62	35	8	43	39	11	50	46	2	48	
10	関東地方	群馬	61	3	64	37	6	43	34	10	44	44	6	50	34	8	42	
11	関東地方	埼玉	275	23	298	231	29	260	242	46	288	242	30	272	229	45	274	
12	関東地方	千葉	143	20	163	153	40	193	117	26	143	228	14	242	186	39	225	2,218
13	関東地方	東京	654	118	772	842	97	939	631	189	820	876	133	1009	896	132	1028	
14	関東地方	神奈川	495	87	582	631	67	698	463	116	579	600	99	699	597	94	691	73
15	北陸地方	新潟	42	6	48	38	10	48	30	5	35	52	5	57	43	4	47	
16	北陸地方	富山	8	1	9	9	2	11	8	0	8	7	2	9	13	0	13	
17	北陸地方	石川	11	3	14	10	0	10	10	0	10	14	4	18	12	0	12	
18	北陸地方	福井	4	0	4	8	0	8	15	0	15	4	2	6	1	0	1	
19	中部地方	山梨	10	6	16	27	1	28	26	1	27	14	0	14	13	0	13	
20	中部地方	長野	48	16	64	70	18	88	41	22	63	66	19	85	57	22	79	290
21	中部地方	岐阜	12	4	16	24	1	25	5	3	8	7	0	7	8	0	8	
22	中部地方	静岡	87	12	99	92	14	106	77	8	85	77	8	85	101	5	106	
23	中部地方	愛知	101	20	121	86	14	100	67	18	85	73	9	82	72	12	84	
24	関西地方	三重	35	0	35	10	2	12	22	1	23	28	5	33	6	3	9	82
25	関西地方	滋賀	7	0	7	1	0	1	8	0	8	2	0	2	1	0	1	
26	関西地方	京都	3	1	4	7	0	7	13	4	17	8	2	10	4	3	7	
27	関西地方	大阪	24	16	40	18	9	27	21	9	30	23	13	36	17	8	25	
28	関西地方	兵庫	23	8	31	27	9	36	36	10	46	20	5	25	25	1	26	
29	関西地方	奈良	5	2	7	1	2	3	0	2	2	2	0	2	13	0	13	
30	関西地方	和歌山	2	4	6	9	0	9	0	0	0	3	0	3	1	0	1	47
31	中国地方	鳥取	3	2	5	1	0	1	0	0	0	3	0	3	3	0	3	
32	中国地方	島根	7	0	7	5	0	5	6	2	8	5	0	5	5	2	7	
33	中国地方	岡山	5	1	6	6	0	6	5	4	9	4	1	5	3	1	4	
34	中国地方	広島	13	6	19	18	4	22	21	4	25	17	1	18	14	5	19	
35	中国地方	山口	15	2	17	12	6	18	7	4	11	12	0	12	12	2	14	
36	四国地方	徳島	3	0	3	1	0	1	3	2	5	3	0	3	0	0	0	20
37	四国地方	香川	3	0	3	4	1	5	10	0	10	6	7	13	5	0	5	
38	四国地方	愛媛	5	0	5	4	0	4	7	1	8	16	1	17	9	0	9	
39	四国地方	高知	0	0	0	6	0	6	2	5	7	3	2	5	2	4	6	
40	九州・沖縄地方	福岡	26	8	34	18	7	25	12	4	16	30	2	32	27	11	38	85
41	九州・沖縄地方	佐賀	11	0	11	15	0	15	4	3	7	6	3	9	10	2	12	
42	九州・沖縄地方	長崎	4	0	4	5	1	6	5	3	8	4	0	4	1	0	1	
43	九州・沖縄地方	熊本	5	0	5	4	3	7	9	0	9	7	0	7	7	6	13	
44	九州・沖縄地方	大分	2	0	2	6	0	6	3	0	3	3	1	4	0	3	3	
45	九州・沖縄地方	宮崎	1	2	3	7	1	8	1	2	3	0	1	1	0	4	4	
46	九州・沖縄地方	鹿児島	15	0	15	11	2	13	2	6	8	9	1	10	3	1	4	5
47	九州・沖縄地方	沖縄	9	6	15	14	10	24	10	11	21	5	3	8	3	7	10	
55	その他	その他	0	9	9	11	2	13	1	9	10	0	11	11	0	5	5	5
59	総合計	総合計	2,406	440	2,846	2,822	409	3,231	2,191	579	2,770	2,812	443	3,255	2,680	480	3,160	3,160
			84.5%	15.5%	100.0%	87.3%	12.7%	100.0%	79.1%	20.9%	100.0%	86.4%	13.6%	100.0%	84.8%	15.2%	100.0%	1
1	北海道	北海道	30	11	41	44	14	58	32	2	34	27	4	31	36	8	44	13
62	東北地方	東北計	107	25	132	133	27	160	61	15	76	114	12	126	93	23	116	-10
63	関東地方	関東計	1720	269	1989	2060	249	2309	1611	419	2030	2138	319	2457	2060	338	2398	-59
64	北陸地方	北陸計	65	10	75	65	12	77	63	5	68	77	13	90	69	4	73	-17
65	中部地方	中部計	258	58	316	299	48	347	216	52	268	237	36	273	251	39	290	17
66	関西地方	関西計	99	31	130	73	22	95	100	26	126	86	25	111	67	15	82	-29
67	中国地方	中国計	43	11	54	42	10	52	39	14	53	41	2	43	37	10	47	4
68	四国地方	四国計	11	0	11	15	1	16	22	8	30	28	10	38	16	4	20	-18
68	九州・沖縄地方	九州・沖縄計	73	16	89	80	24	104	46	29	75	64	11	75	51	34	85	10
55	その他	その他	0	9	9	11	2	13	1	9	10	0	11	11	0	5	5	-6

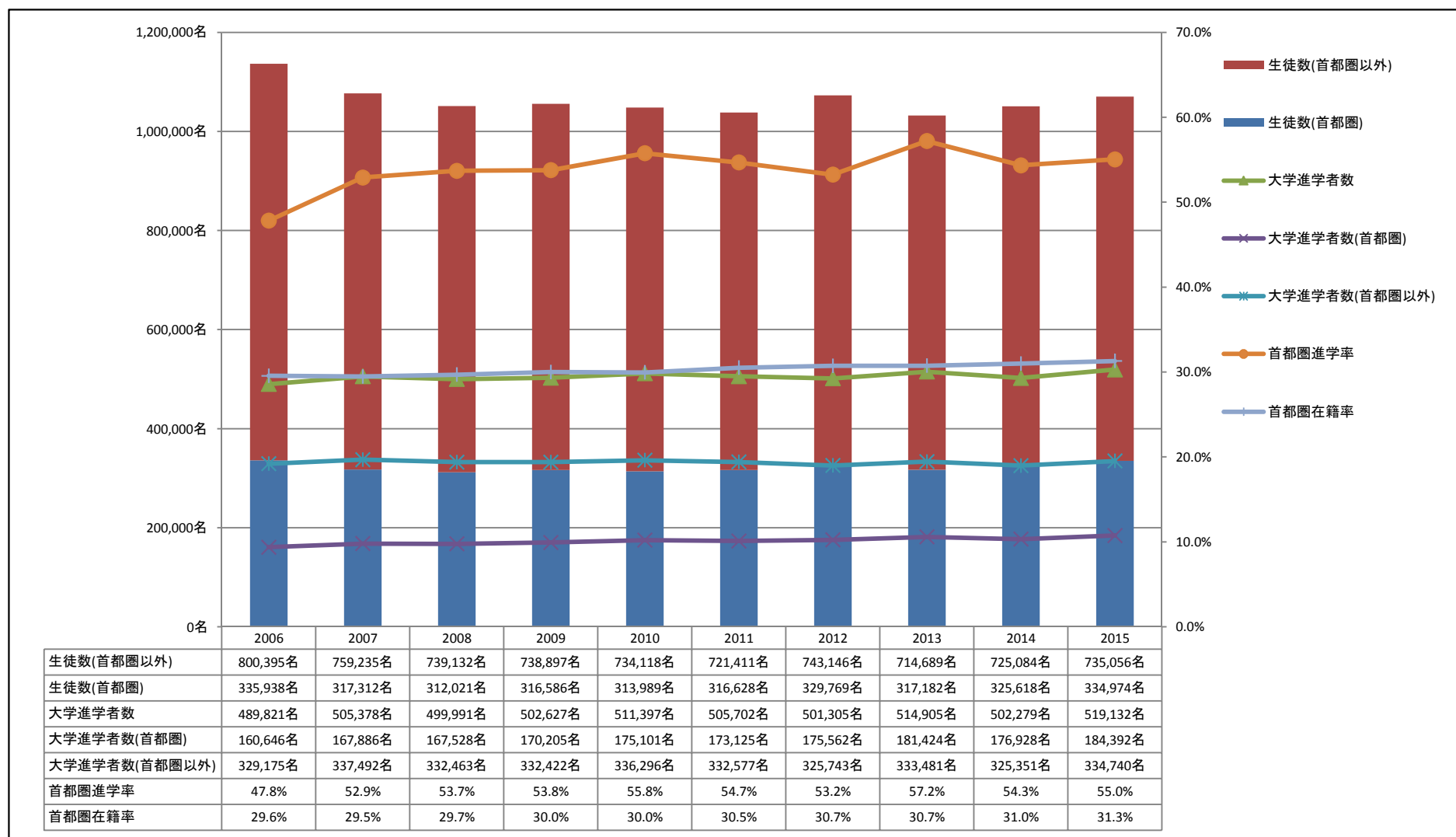
	首都圏 志願率	首都圏 志願者	志願者 総数
H27年度	75.5%	2,457	3,255
差異	0.4%		-95
H28年度	75.9%	2,398	3,160
			-2.9%

前年比の 全体と 首都圏	全体	首都圏	首都圏 の割合
	-95	-59	62.1%

前年比
-95

首都圏及びそれ以外の生徒数と進学率

資料5



本資料については、2006年～2015年に公表された学校基本調査における高等学校全日制の「学年別生徒数」及び「都道府県別大学・短期大学等への進学者数」より集計

平成28(2016)年度入試サテライト会場実施状況

	学 科 名 定員数		平成28年度		
			全体	サテライト 会場	全体に対する サテライト会場 の割合 %
体育学部	体育学科 750	志願者数	2,660	138	5%
		合格者	949	21	2%
		入学者数	818	6	1%
		合格率	36%	15%	—
		歩留り率	86%	29%	—
	健康学科 195	志願者数	767	26	3%
		合格者	273	10	4%
		入学者数	197	7	4%
		合格率	36%	38%	—
		歩留り率	72%	70%	—
	武道学科 120	志願者数	239	34	14%
		合格者	152	27	18%
		入学者数	147	27	18%
		合格率	64%	79%	—
		歩留り率	97%	100%	—
	社会体育学科 195	志願者数	1,067	40	4%
		合格者	254	2	1%
		入学者数	196	2	1%
		合格率	24%	5%	—
		歩留り率	77%	100%	—
	合計 1,260	志願者数	4,733	238	5%
		合格者	1,628	60	4%
		入学者数	1,358	42	3%
		合格率	34%	25%	—
		歩留り率	83%	70%	—

日本体育大学「スポーツマネジメント学部（仮称）」に関するアンケート調査票
〈回答した内容によって将来の進路が制限されることはありません〉

日本体育大学では、スポーツを取り巻くさまざまな経済的価値を俯瞰（ふかん）し、スポーツの経済的活動の支援等に従事しうる人材を養成するほか、全ての人々の豊かなスポーツライフの実現に向けて、多様な現状と課題を踏まえ、ライフステージに応じたスポーツ活動を推進することのできる人材を養成することを目的に「スポーツマネジメント学部（仮称）」の設置構想を進めております。

このアンケート調査は高校在学生の卒業後の進路などについてお聞きし、新学部の基礎資料とするものです。ご協力をお願いします。

なお、このアンケートの結果は、コンピューターにより処理され、統計資料としてのみ用い、外部の人に見せたりすることはありません。

「スポーツマネジメント学部（仮称）」の概要については、別紙を参照してください。

回答欄に記入してください。

問 1. あなたの性別を教えてください。（あてはまるものを 1 つを記入）

1. 男性 2. 女性

問 2. あなたの居住地を教えてください。（あてはまるものを 1 つ記入）

1. 東京都 2. 神奈川県 3. 千葉県
 4. 埼玉県 5. 静岡県 6. その他（ ）

問 3. 現在のところ興味のある高校卒業後の進路を教えてください。（あてはまるもの 1 つを記入）

1. 四（六）年制大学 2. 短期大学 3. 専門学校
 4. 就職 5. その他（ ）

問 4. 現在のところ、あなたの興味のある分野について、以下の 14 の選択肢の中から、希望順に 1 位から 3 位までの番号を記載してください。

- | | | |
|---------------|---------------|---------------------------------|
| 1. スポーツ・健康科学 | 6. 法学・政治 | 11. 医療 |
| 2. 教育・保育 | 7. 社会・観光・社会福祉 | 12. 栄養・家政 |
| 3. 国際関係・外国語 | 8. 理学・工学・情報 | 13. 芸術 |
| 4. 経済・経営・ビジネス | 9. 農・畜産・水産 | 14. その他（ ） |
| 5. 文学・歴史・心理 | 10. 医学・歯学・薬学 | |

1 位	
2 位	
3 位	

問5. あなたは進学先を選択する際に、どのようなことを重視しますか。以下の12の選択肢の中から、3つまでの番号を記載してください。

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 学部・学科の専攻分野 | 7. 学費（入学金・授業料） |
| 2. 教育方針やカリキュラム | 8. 学校の伝統・知名度 |
| 3. 学校の所在地（交通の利便の良さ） | 9. 入試難易度・入試科目 |
| 4. 資格を取得できる | 10. 周囲の意見 |
| 5. 就職実績 | 11. クラブ活動・学校生活の充実度 |
| 6. 校舎・施設・設備等の教育研究環境 | 12. その他（ ） |

1	
2	
3	

問6. あなたは日本体育大学が構想中の「スポーツマネジメント学部(仮称)」に興味・関心をもちましたか。
(あてはまるもの1つを記入)

- | | | |
|-----------------|---|-------------------|
| 1. 興味・関心をもった | } | 1～2の方は問7にお答えください。 |
| 2. やや興味・関心をもった | | |
| 3. どちらともいえない | } | 3～4の方は問8にお答えください。 |
| 4. 興味・関心をもてなかった | | |

--

※「問6」で「1. 興味・関心をもった」「2. やや興味・関心をもった」と答えた人のみ回答してください。

問7. あなたは日本体育大学が構想中の「スポーツマネジメント学部(仮称)」の「スポーツマネジメント学科(仮称)」と「スポーツライフマネジメント学科(仮称)」のどちらを進学したいと思いますか。
(第1希望、第2希望を記入)

- | | | |
|------------------------------|---|-----------------|
| 1. スポーツマネジメント学科(仮称)を進学したい | } | 3の方は問8にお答えください。 |
| 2. スポーツライフマネジメント学科(仮称)を進学したい | | |
| 3. どちらかの学科も進学しない | | |

第1希望	
第2希望	

※「問6」で「3. どちらともいえない」「4. 興味・関心をもてなかった」、「問7」で「3. 受験しない」を答えた人のみ回答してください。

問8. あなたが日本体育大学が構想中の「スポーツマネジメント学部(仮称)」に興味・関心をもてない、または受験に前向きになれない理由をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1. 構想内容に魅力を感じないから。
2. 興味・関心のある学問分野がないから。
3. 興味・関心のある学問分野はあるが、他大学への進学を検討したいから。
4. 新設学科に進学するのは不安だから。
5. 自宅からの通学が不便そうだから。
6. もっと詳しい情報を得た上で検討したいから。
7. 大学進学以外の進路を検討しているから。
8. その他（ ）

これでアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

スポーツ行動に係る全てのマネジメント技術や理論を習得する

スポーツマネジメント学部（仮称）

設置構想中

学部・学科の概要

名 称：スポーツマネジメント学部(仮称)

スポーツマネジメント学科(仮称)、スポーツライフマネジメント学科(仮称)

開設時期：2018(平成 30)年 4 月(予定)

開設場所：日本体育大学横浜・健志台キャンパス(住所：神奈川県横浜市青葉区鴨志田町 1221-1)

修業年限：4 年

入学定員：スポーツマネジメント学科 145 名、スポーツライフマネジメント学科 110 名

収容定員：スポーツマネジメント学科 580 名、スポーツライフマネジメント学科 440 名

修得学位：学士（体育学）

学科の特色

<スポーツマネジメント学科(仮称)>

1. スポーツイベントやスポーツ施設の経営などの事業において、スポーツ活動（する、観る、支える）を支援することのできる人材を養成する。
2. 各種のスポーツ産業と協力して、スポーツ事業をマネジメントするための知識と技術を習得させる。

<スポーツライフマネジメント学科(仮称)>

1. すべての人々に生涯にわたって健康で自立した生活ができることを目的に、ライフステージ（人間の一生における幼児期・児童期・青年期・壮年期・老年期などのそれぞれの段階）に応じてスポーツや運動を組み立て、競技スポーツだけでなく健康スポーツを自ら手本を示し指導することができる人材を養成する。
2. 国民の健康に資するスポーツの技術指導のみならず、スポーツによるコミュニティ（目的を共有している仲間）を形成することができる知識と技術を習得させる。

取得可能な資格（予定）

<スポーツマネジメント学部(仮称)共通>

「中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）」、(公財) 全日本スキー連盟「級別テスト 1 級・2 級・3 級」、(社) 日本赤十字社「水上安全法救助員」「救急法救急員」「基礎講習認定」、NAUI「スクーバーダイバー」「日本スノーケリングインストラクター」、(公財) 日本シェアリングネイチャー協会「ネイチャーゲームリーダー」、(公財) 日本キャンプ協会「キャンプインストラクター」、(公財) 日本体育協会「公認スポーツ指導者 1.2.3」

<スポーツマネジメント学科(仮称)>

(公財) 日本体育協会「公認アシスタントマネジャー」、(公財) 日本体育施設協会「体育施設運営士」「体育施設管理士」

<スポーツライフマネジメント学科(仮称)>

「社会教育主事（任用）」、(公財) 日本レクリエーション協会「スポーツ・レクリエーションインストラクター」、(公財) 日本障がい者スポーツ協会「障害者スポーツ指導員（初級）」、「障害者スポーツ指導員（中級）」

卒業後の進路

1. スポーツマネジメント学科(仮称)

スポーツビジネス産業／スポーツイベント産業／スポーツメディア産業／プロスポーツ産業／各種公務員／中学校・高等学校教諭（保健体育）／一般企業

2. スポーツライフマネジメント学科(仮称)

スポーツ産業／アウトドアスポーツ産業／健康スポーツ産業／各種公務員／中学校・高等学校教諭（保健体育）／一般企業

学費（他大学との比較）

大学名・学部名・学科名・所在地	入学金 (初年度のみ)	授業料等 (年間)
日本体育大学スポーツマネジメント学部(仮称) 住所：神奈川県横浜市	300,000	1,260,000
日本体育大学体育学部 住所：東京都世田谷区及び神奈川県横浜市	300,000	1,260,000
早稲田大学スポーツ科学部スポーツ科学科 住所：埼玉県所沢市	200,000	1,491,000
日本大学競技スポーツ学部競技スポーツ学科 住所：東京都世田谷区	200,000	1,200,000
東海大学体育学部 スポーツ・レジャーマネジメント学科 住所：神奈川県平塚市	300,000	1,228,000

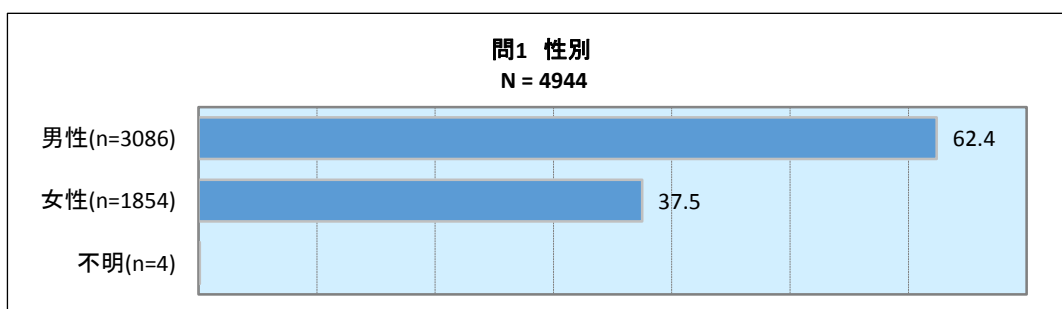
スポーツマネジメント学部に関するアンケート[集計表]

日本体育大学「スポーツマネジメント学部(仮称)」に関するアンケート調査票 単純集計

問1 性別

(SA)

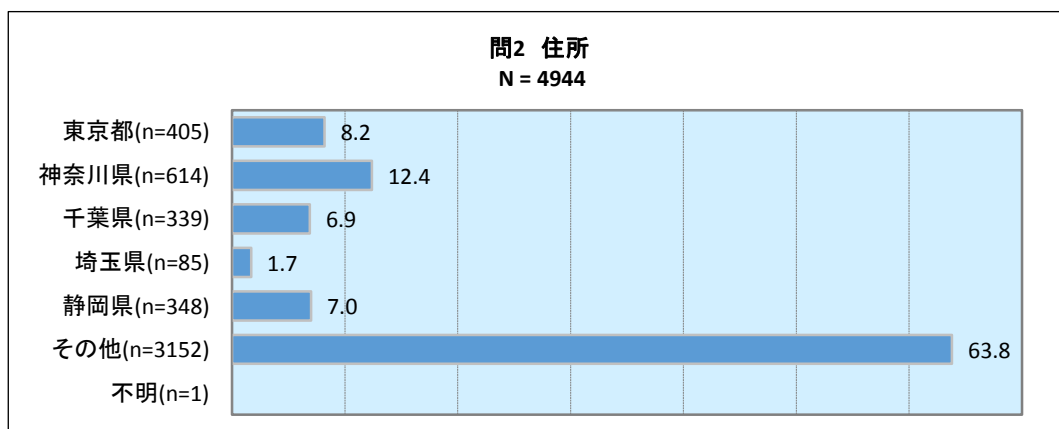
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	男性	3,086	62.4	62.5
2	女性	1,854	37.5	37.5
	不明	4	0.1	
	合計	4,944	100	4,940



問2 住所

(SA)

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	東京都	405	8.2	8.2
2	神奈川県	614	12.4	12.4
3	千葉県	339	6.9	6.9
4	埼玉県	85	1.7	1.7
5	静岡県	348	7.0	7.0
6	その他	3,152	63.8	63.8
	不明	1	0.0	
	合計	4,944	100	4,943



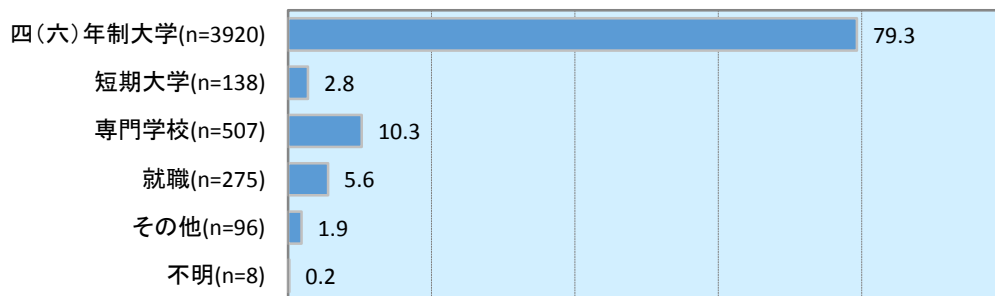
問3 高校卒業後の進路

(SA)

【表1】

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	四(六)年制大学	3,920	79.3	79.4
2	短期大学	138	2.8	2.8
3	専門学校	507	10.3	10.3
4	就職	275	5.6	5.6
5	その他	96	1.9	1.9
	不明	8	0.2	
	合計	4,944	100	4,936

問3 高校卒業後の進路
N = 4944

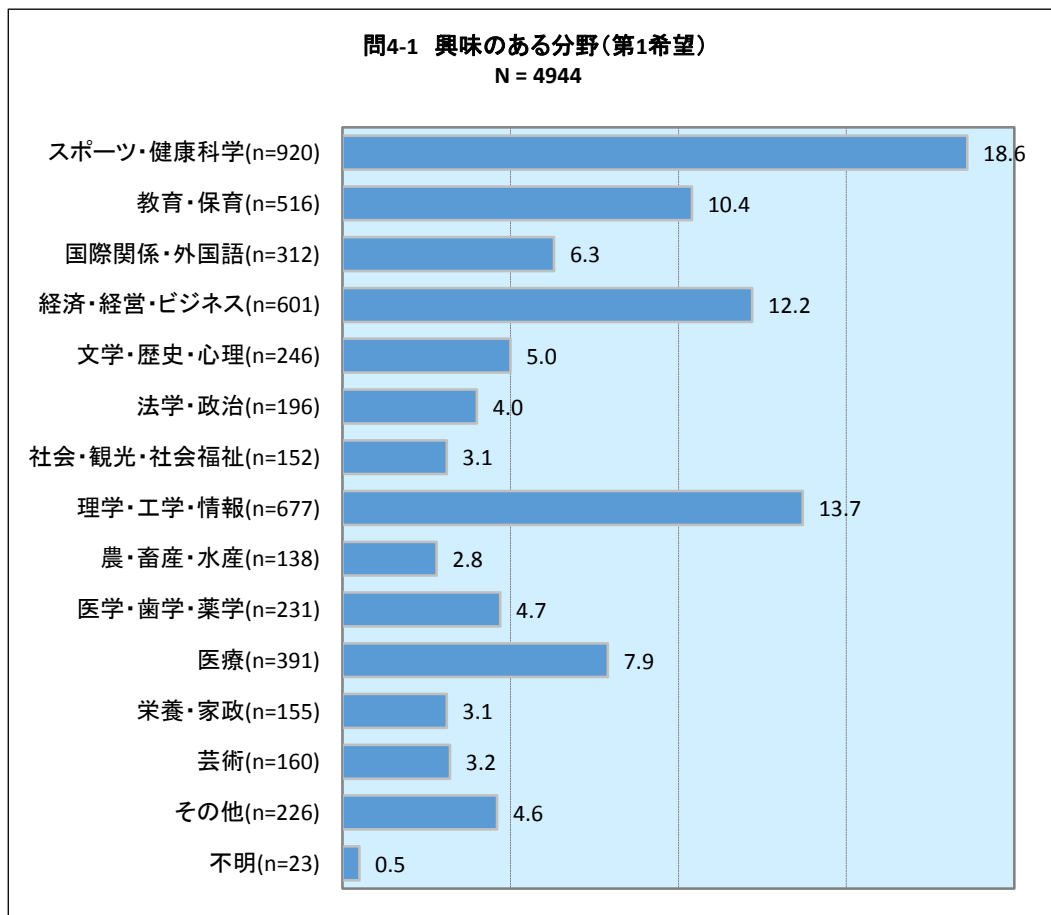


問4-1 興味のある分野(第1希望)

(SA)

【表2】

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	スポーツ・健康科学	920	18.6	18.7
2	教育・保育	516	10.4	10.5
3	国際関係・外国語	312	6.3	6.3
4	経済・経営・ビジネス	601	12.2	12.2
5	文学・歴史・心理	246	5.0	5.0
6	法学・政治	196	4.0	4.0
7	社会・観光・社会福祉	152	3.1	3.1
8	理学・工学・情報	677	13.7	13.8
9	農・畜産・水産	138	2.8	2.8
10	医学・歯学・薬学	231	4.7	4.7
11	医療	391	7.9	7.9
12	栄養・家政	155	3.1	3.1
13	芸術	160	3.2	3.3
14	その他	226	4.6	4.6
	不明	23	0.5	
	合計	4,944	100	4,921

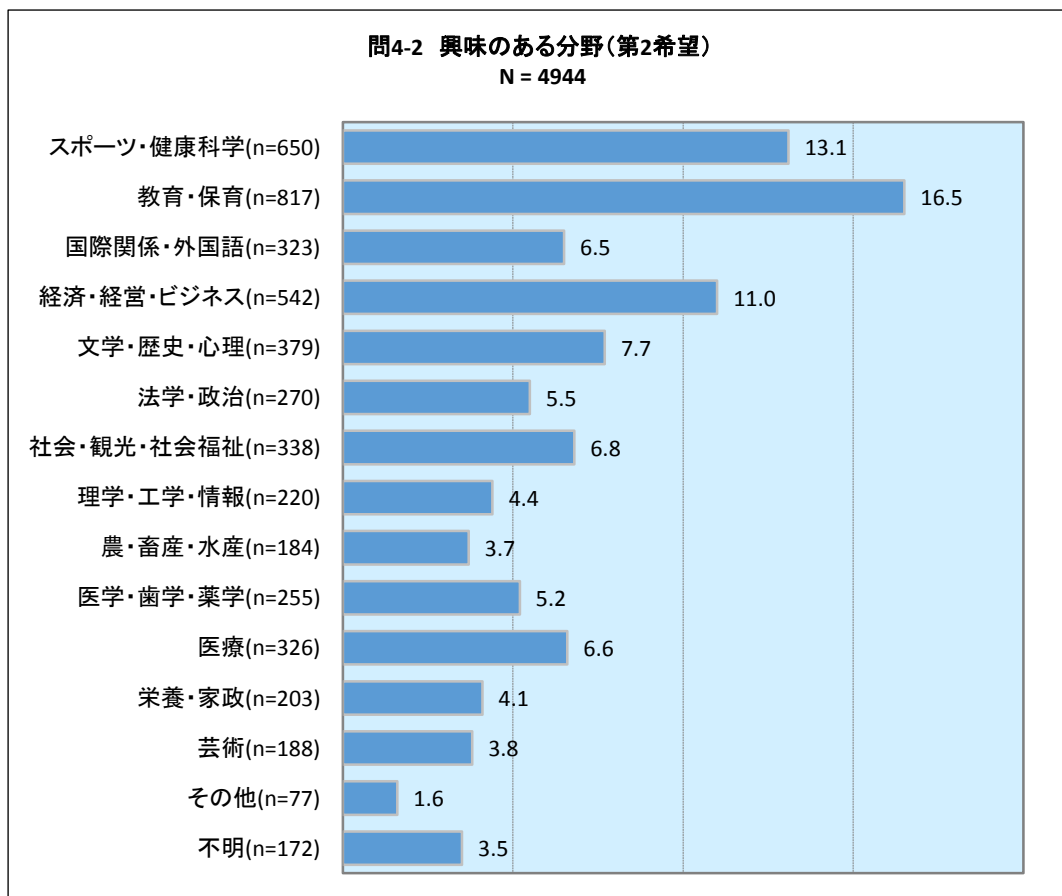


問4-2 興味のある分野(第2希望)

(SA)

【表3】

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	スポーツ・健康科学	650	13.1	13.6
2	教育・保育	817	16.5	17.1
3	国際関係・外国語	323	6.5	6.8
4	経済・経営・ビジネス	542	11.0	11.4
5	文学・歴史・心理	379	7.7	7.9
6	法学・政治	270	5.5	5.7
7	社会・観光・社会福祉	338	6.8	7.1
8	理学・工学・情報	220	4.4	4.6
9	農・畜産・水産	184	3.7	3.9
10	医学・歯学・薬学	255	5.2	5.3
11	医療	326	6.6	6.8
12	栄養・家政	203	4.1	4.3
13	芸術	188	3.8	3.9
14	その他	77	1.6	1.6
	不明	172	3.5	
	合計	4,944	100	4,772



問4-3 興味のある分野(第3希望)

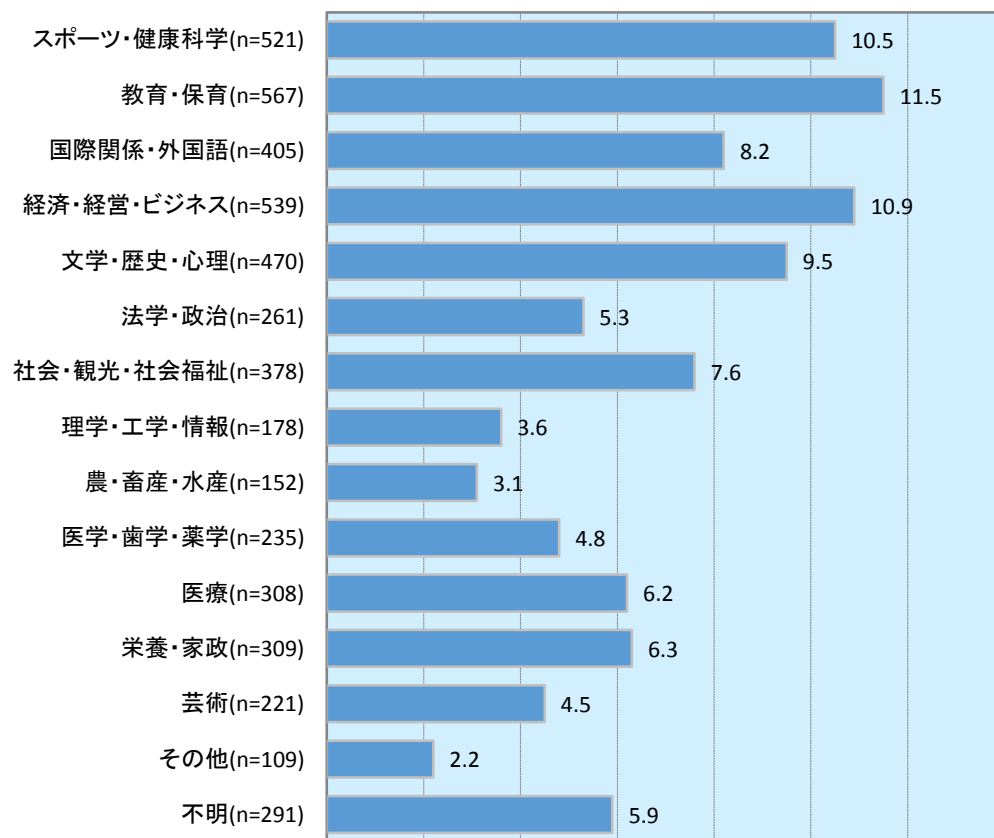
(SA)

【表4】

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	スポーツ・健康科学	521	10.5	11.2
2	教育・保育	567	11.5	12.2
3	国際関係・外国語	405	8.2	8.7
4	経済・経営・ビジネス	539	10.9	11.6
5	文学・歴史・心理	470	9.5	10.1
6	法学・政治	261	5.3	5.6
7	社会・観光・社会福祉	378	7.6	8.1
8	理学・工学・情報	178	3.6	3.8
9	農・畜産・水産	152	3.1	3.3
10	医学・歯学・薬学	235	4.8	5.1
11	医療	308	6.2	6.6
12	栄養・家政	309	6.3	6.6
13	芸術	221	4.5	4.7
14	その他	109	2.2	2.3
	不明	291	5.9	
	合計	4,944	100	4,653

問4-3 興味のある分野(第3希望)

N = 4944



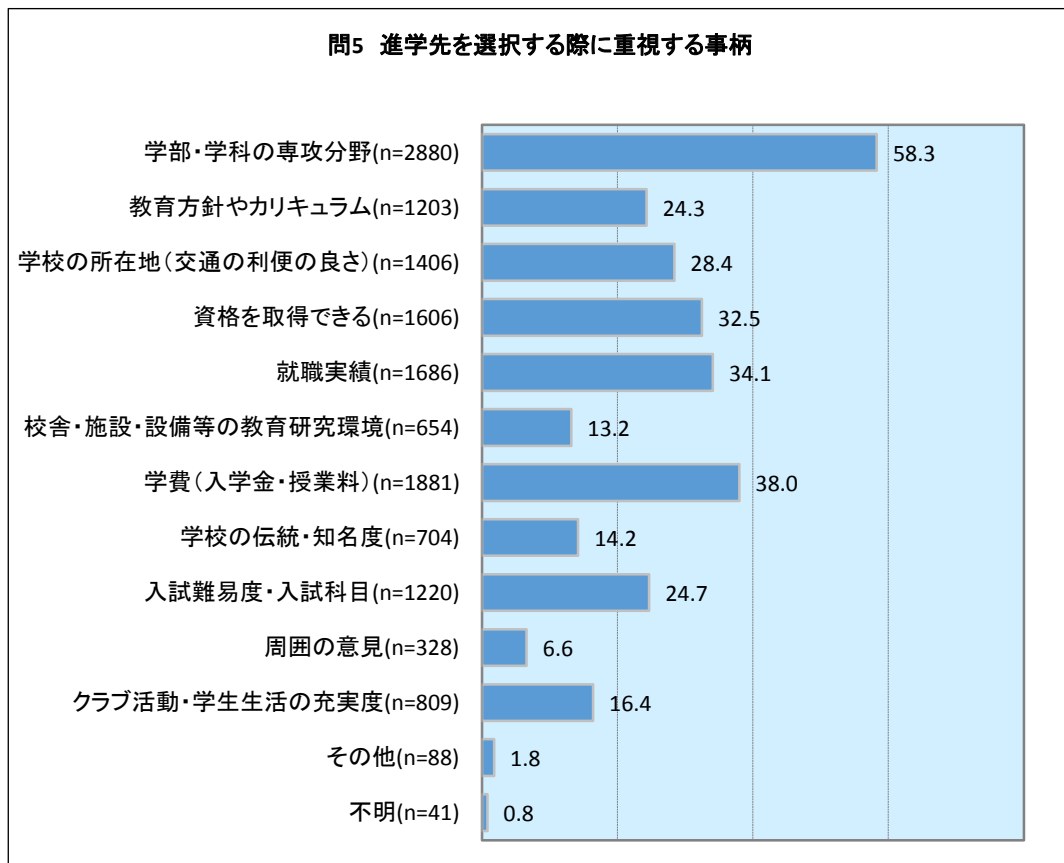
問5 進学先を選択する際に重視する事柄

(MA)

【表5】

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	学部・学科の専攻分野	2,880	58.3	58.7
2	教育方針やカリキュラム	1,203	24.3	24.5
3	学校の所在地(交通の利便の良さ)	1,406	28.4	28.7
4	資格を取得できる	1,606	32.5	32.8
5	就職実績	1,686	34.1	34.4
6	校舎・施設・設備等の教育研究環境	654	13.2	13.3
7	学費(入学金・授業料)	1,881	38.0	38.4
8	学校の伝統・知名度	704	14.2	14.4
9	入試難易度・入試科目	1,220	24.7	24.9
10	周囲の意見	328	6.6	6.7
11	クラブ活動・学生生活の充実度	809	16.4	16.5
12	その他	88	1.8	1.8
	不明	41	0.8	
	合計	4,944	100	4,903

※複数回答のため、合計＝4,944(100%)にならない。



問6 スポーツマネジメント学部に対する興味・関心

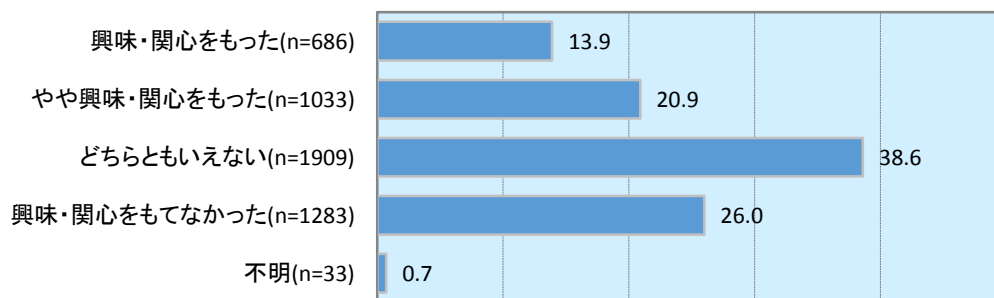
(SA)

【表6】

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	興味・関心をもった	686	13.9	14.0
2	やや興味・関心をもった	1,033	20.9	21.0
3	どちらともいえない	1,909	38.6	38.9
4	興味・関心をもてなかった	1,283	26.0	26.1
	不明	33	0.7	
	合計	4,944	100	4,911

問6 スポーツマネジメント学部に対する興味・関心

N = 4944



問7-1 新学科への進学希望(第1希望)

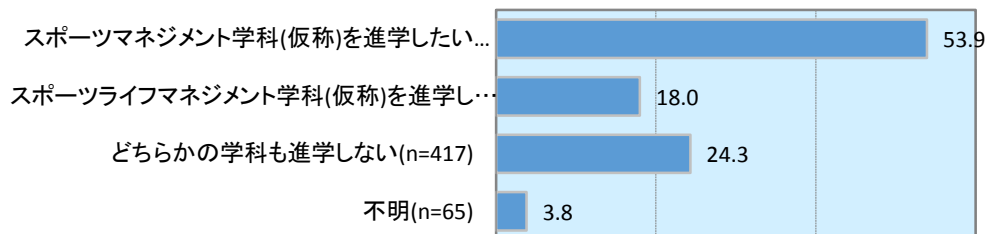
(SA)

【表7】

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	スポーツマネジメント学科(仮称)を進学したい	927	53.9	56.0
2	スポーツライフマネジメント学科(仮称)を進学したい	310	18.0	18.7
3	どちらかの学科も進学しない	417	24.3	25.2
	不明	65	3.8	
	合計	1,719	100	1,654

問7-1 新学科への進学希望(第1希望)

N = 1719



問7-2 新学科への進学希望(第2希望)

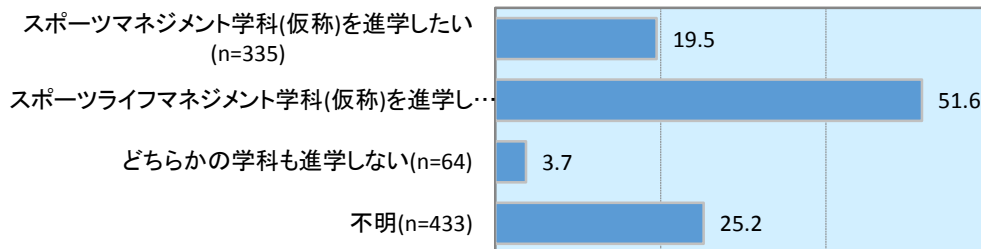
(SA)

【表8】

No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	スポーツマネジメント学科(仮称)を進学したい	335	19.5	26.0
2	スポーツライフマネジメント学科(仮称)を進学したい	887	51.6	69.0
3	どちらかの学科も進学しない	64	3.7	5.0
	不明	433	25.2	
	合計	1,719	100	1,286

問7-2 新学科への進学希望(第2希望)

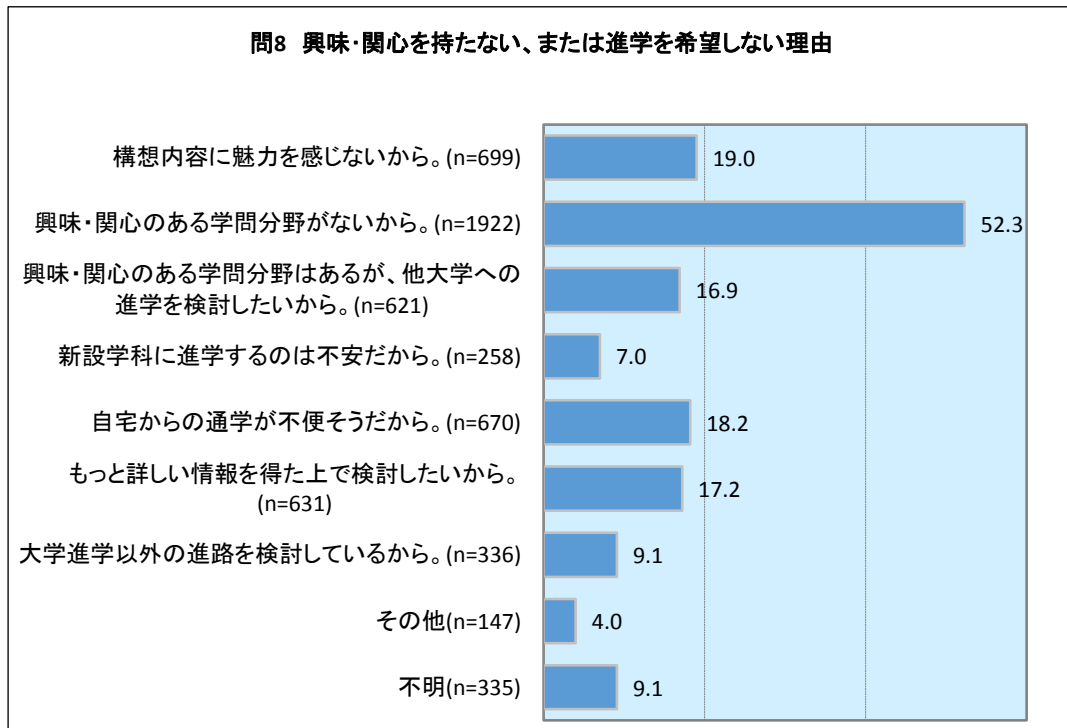
N = 1719



問8 興味・関心を持たない、または進学を希望しない理由 (MA)

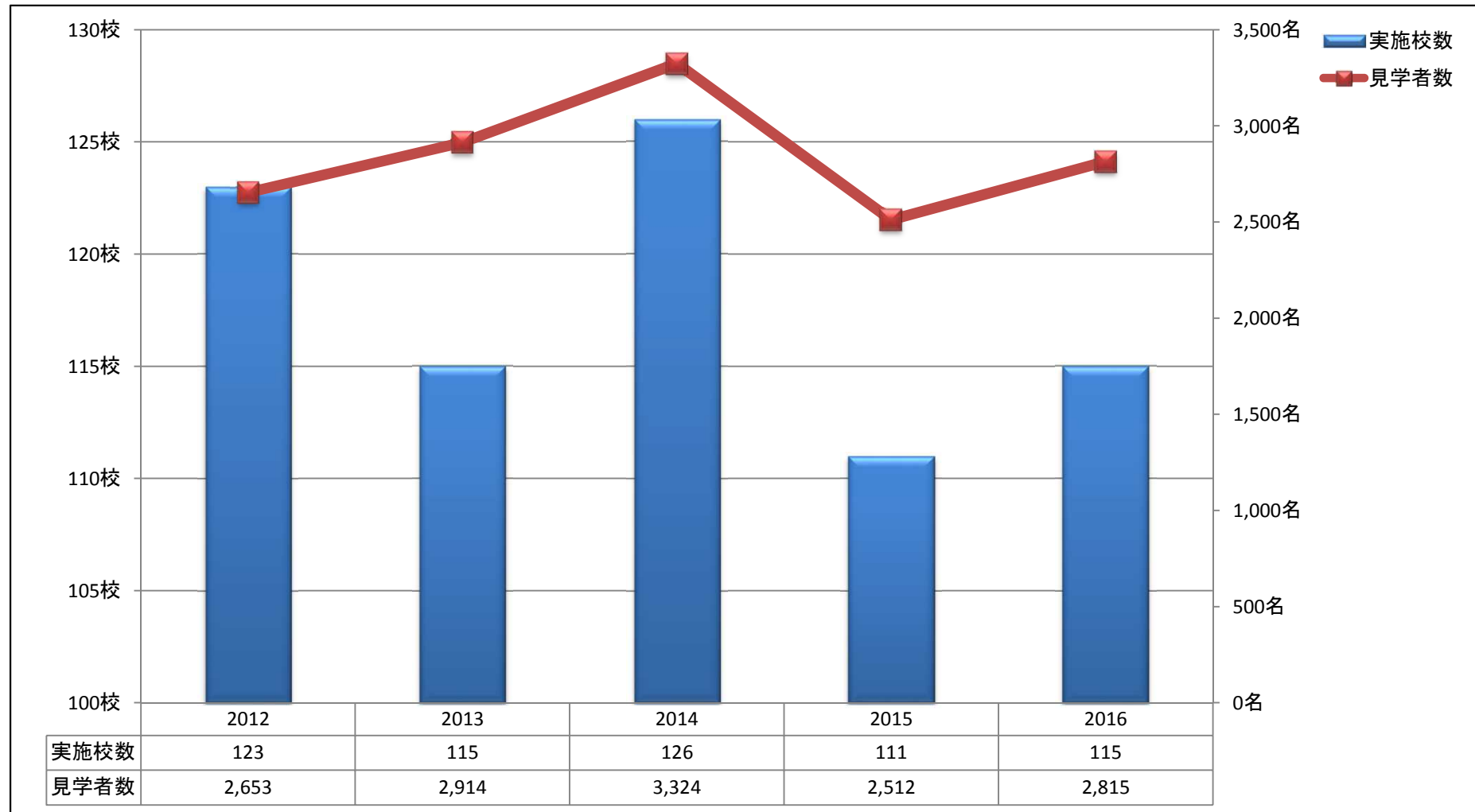
No.	カテゴリ	件数	(全体)%	(除不)%
1	構想内容に魅力を感じないから。	699	19.0	20.9
2	興味・関心のある学問分野がないから。	1,922	52.3	57.6
3	興味・関心のある学問分野はあるが、他大学への進学を検討したいから。	621	16.9	18.6
4	新設学科に進学するのは不安だから。	258	7.0	7.7
5	自宅からの通学が不便そうだから。	670	18.2	20.1
6	もっと詳しい情報を得た上で検討したいから。	631	17.2	18.9
7	大学進学以外の進路を検討しているから。	336	9.1	10.1
8	その他	147	4.0	4.4
	不明	335	9.1	
	合計	3,673	100	3,338

※複数回答のため、合計＝3,673(100%)にならない。



大学(キャンパス)見学受入れ状況

資料10

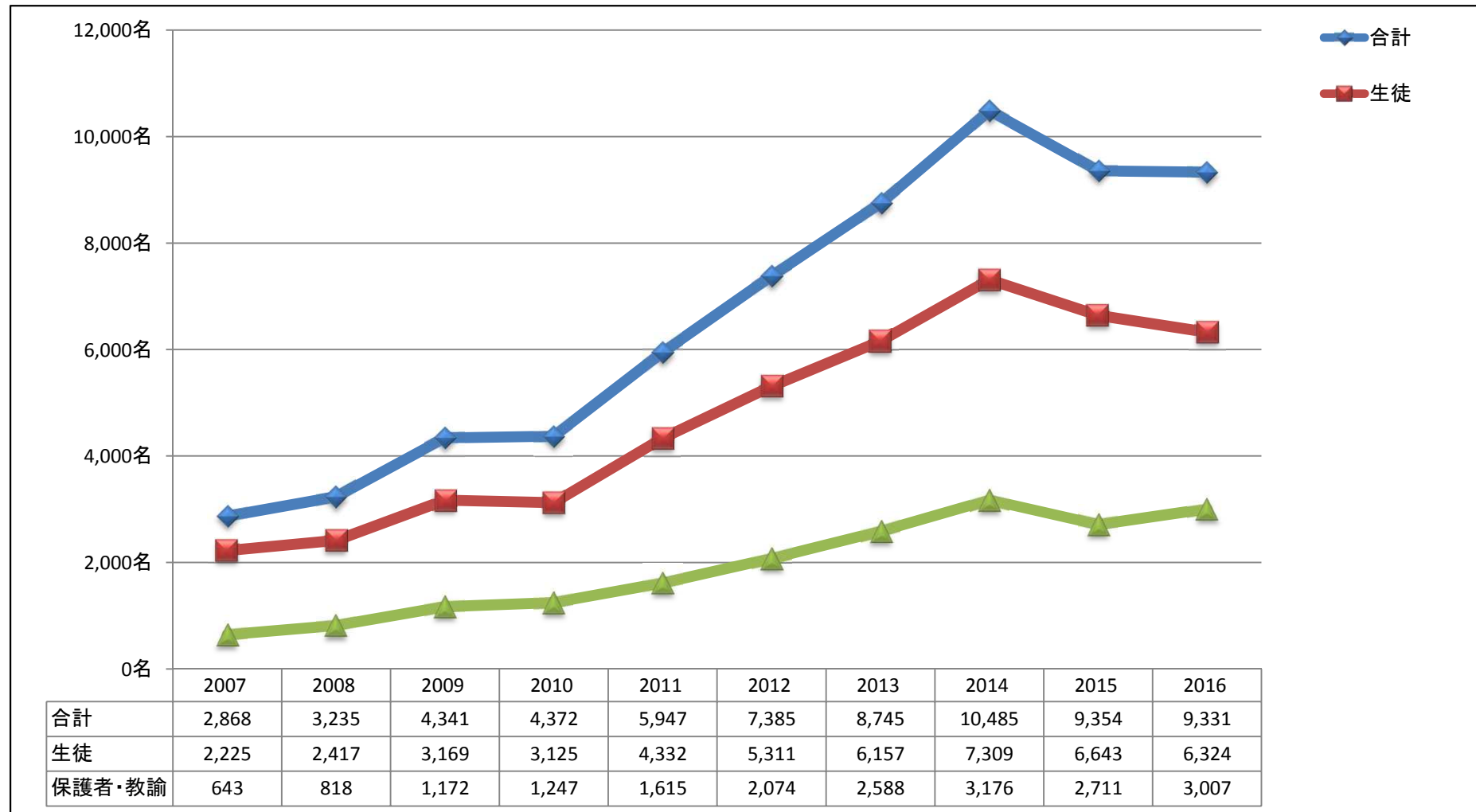


※平成29年3月31日現在。

※過去5年間の集計。

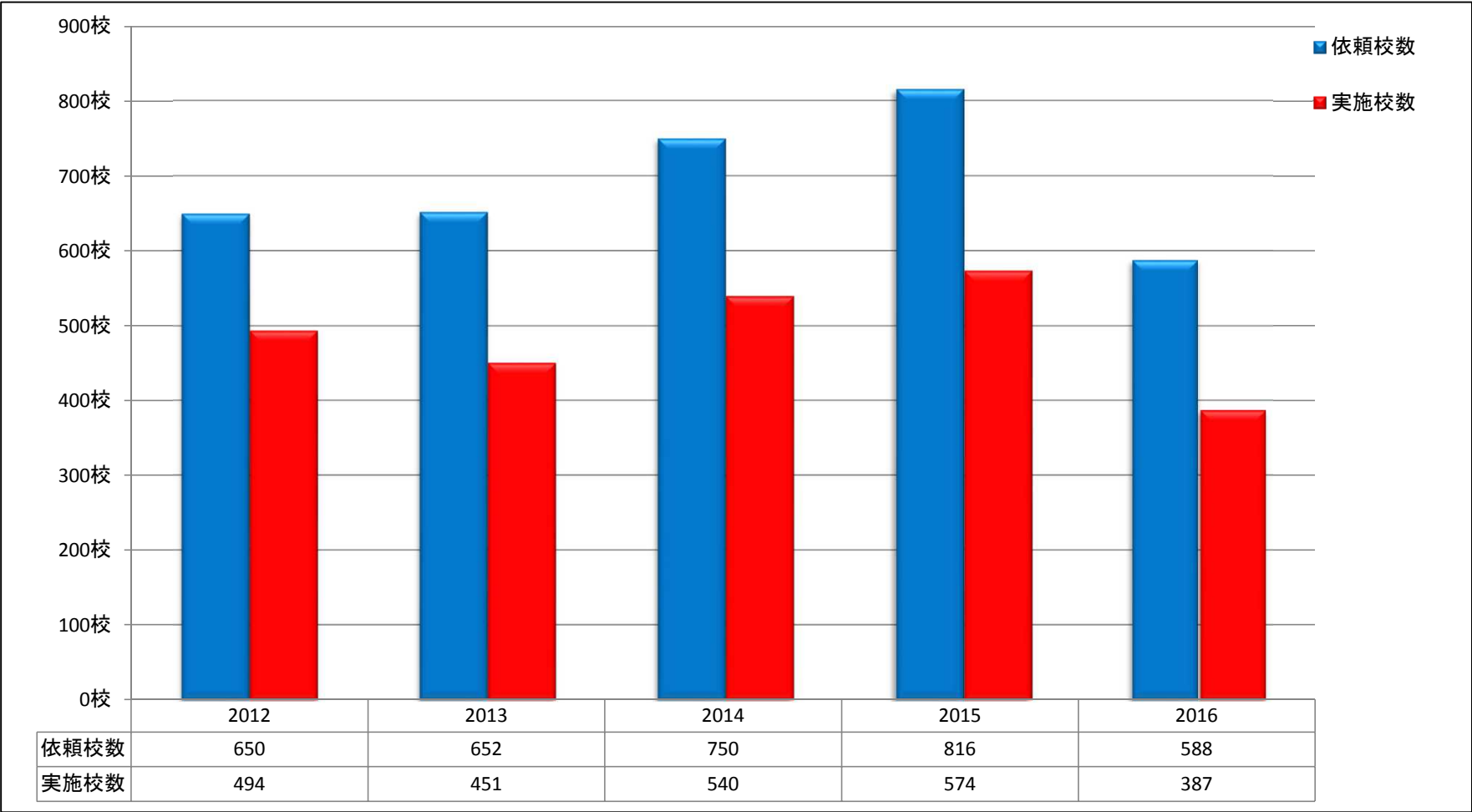
オープンキャンパス参加者年度推移

資料11



※平成29年3月31日現在。

※過去10年間の集計。

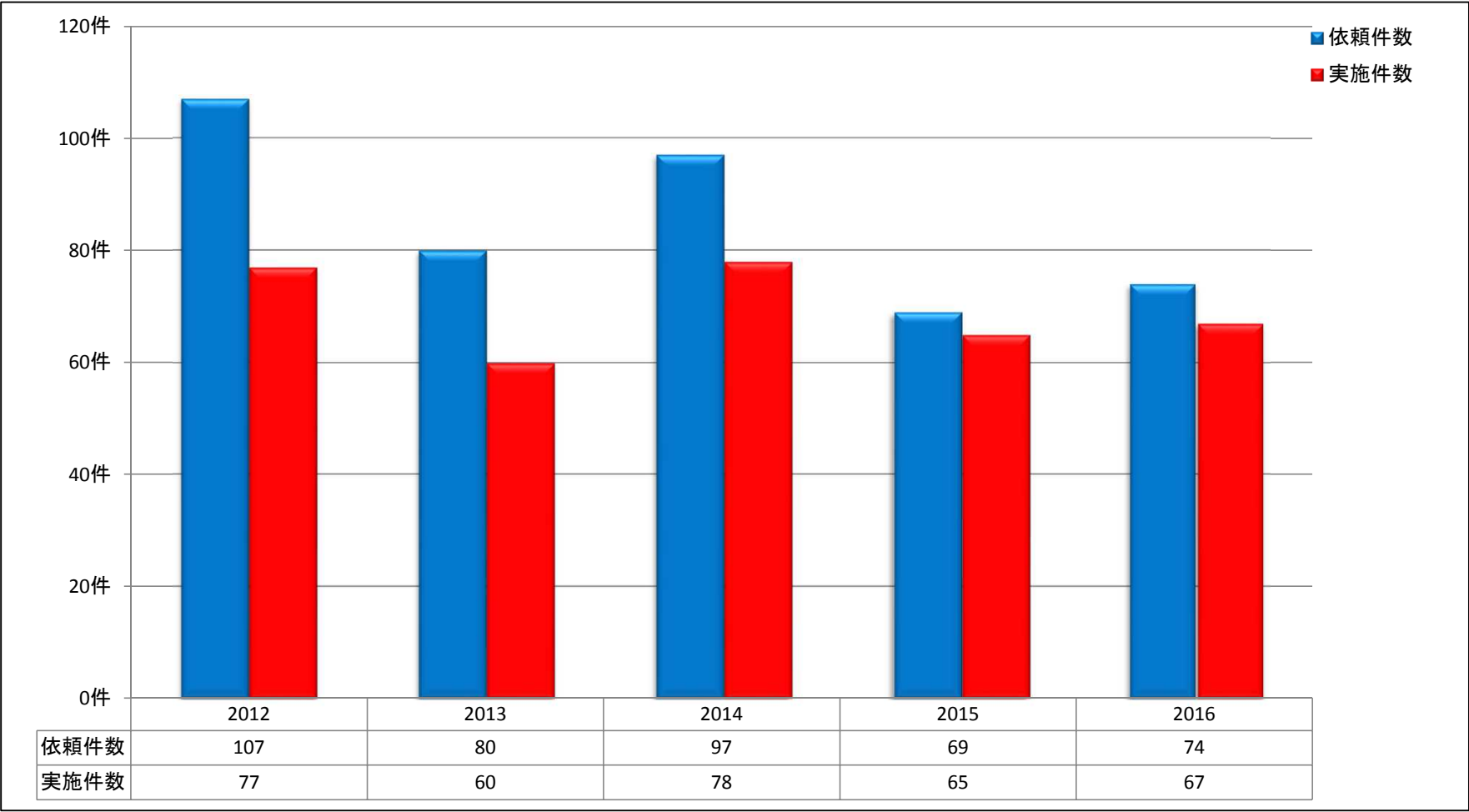


※平成29年3月31日現在。

※過去5年間の集計。

会場形式進学説明会依頼状況

資料13



※平成29年3月31日現在。
※過去5年間の集計。

スポーツビジネス現場実習 実習施設一覧

No.	実習施設名	受入可能人数
1	横浜マリノス株式会社	5
2	公益財団法人日本体育協会	10
3	東京ヴェルディ1969フットボールクラブ株式会社	5
4	公益社団法人和歌山県体育協会	15
5	公益財団法人世田谷区スポーツ振興財団	30
6	株式会社新潟アルビレックス・ベースボール・クラブ	5
7	公益財団法人日本野球連盟	3
8	株式会社太平洋クラブ	10
9	MTBウォーキングスタジオ吉祥寺	2
10	一般社団法人関西ワールドマスターズゲームズ2021組織委員会	3
11	株式会社ドーム	5
12	一般社団法人神奈川県サッカー協会	1
13	公益財団法人横浜市体育協会	30
14	株式会社スポーツボックス	4
15	株式会社こども体育研究所	20
16	株式会社エキスプレススポーツ	5
17	公益財団法人神奈川県体育協会	5
18	株式会社セレスポ	10
19	株式会社川崎フロンターレ	15
20	幼児活動研究会株式会社	10
21	富士通スタジアム川崎	2
22	株式会社モルテン	2
23	富士通株式会社	若干名
24	株式会社ゴルフダイジェストオンライン	5
25	株式会社ジョイハンズスポーツ	5
26	アディダスジャパン株式会社	3
27	公益財団法人全日本軟式野球連盟	3

合計 213

障害者スポーツ現場実習 大会等一覧

No.	大会名	主催者	募集人数
1	川崎市障害者スポーツ大会 (アーチェリー大会)	川崎市障害者スポーツ協会	10人
2	川崎市障害者スポーツ大会 (水泳大会)	川崎市障害者スポーツ協会	10～15人
3	神奈川県障害者スポーツ大会 (FD競技)	かながわFD協会	10人
4	内閣総理大臣杯争奪 日本車椅子バスケットボール選手権大会	日本車椅子バスケットボール連盟 日本障がい者スポーツ協会、日本バスケットボール協会	各10人
5	川崎市障害者スポーツ大会 (フライングディスク大会)	川崎市障害者スポーツ協会	10人
6	川崎市障害者スポーツ大会 (陸上大会)	川崎市障害者スポーツ協会	20～25人
7	東京都障害者スポーツ大会 (前日準備)	東京都障害者スポーツ協会	20人
8	東京都障害者スポーツ大会 (陸上競技・知)	東京都障害者スポーツ協会	60人
9	東京都障害者スポーツ大会 (フライングディスク)	東京都障害者スポーツ協会	80人
10	東京都障害者スポーツ大会 (陸上競技・知)	東京都障害者スポーツ協会	40人
11	東京都障害者スポーツ大会 (サッカー)	東京都障害者スポーツ協会	20人
12	東京都障害者スポーツ大会 (陸上競技・身/精)	東京都障害者スポーツ協会	80人
13	東京都障害者スポーツ大会 (サッカー)	東京都障害者スポーツ協会	20人
14	スペシャルオリンピックス日本・東京 夏季地区大会(陸上競技)	認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・東京	10人
15	障害者フライングディスク指導者養成講習会	日本障害者フライングディスク連盟	30人
16	関東パラ陸上競技選手権大会	特定非営利活動法人関東パラ陸上競技協会	各50人
17	全日本障害者フライングディスク競技大会 (前日準備)	日本障害者フライングディスク連盟	40人
18	全日本障害者フライングディスク競技大会	日本障害者フライングディスク連盟	80人
19	海水浴	NPO法人こども応援ネットワークアンダンテ	5人前後 (男性優先)
20	日本車いすテニス選手権大会 (前日準備)	神奈川県車いすテニス協会	5人
21	日本車いすテニス選手権大会	神奈川県車いすテニス協会	各5人
22	白駒池・原始林	NPO法人こども応援ネットワークアンダンテ	3～5人 (男性限定)
23	長野・山梨宿泊	NPO法人こども応援ネットワークアンダンテ	5人前後
24	東京都障害者スポーツ大会 重度障害者競技大会	東京都、NHK厚生文化事業団 東京都障害者スポーツ協会	10～20名
25	Fdreamかながわ障がい者フライングディスク大会	かながわFD協会	15人
26	チャリティウォーク&フェスティバル	認定NPO法人スペシャルオリンピックス日本・東京	15人
27	手をつなぐフェスティバル	川崎市障害者スポーツ協会	10人
28	高尾山登山	NPO法人こども応援ネットワークアンダンテ	5人 (男性優先)
29	白馬スキー	NPO法人こども応援ネットワークアンダンテ	3～5人 (男性限定)
30	パラ駅伝	日本財団パラリンピックサポートセンター	希望者全員

レクリエーション現場実習 実習施設一覧

No.	実習施設・団体名	受入可能人数
1	公益財団法人日本レクリエーション協会	30
2	一般社団法人東京都レクリエーション協会	107事業
3	特定非営利活動法人神奈川県レクリエーション協会	2
4	一般社団法人日本カントリー&ライン・ダンススポーツ連盟	50

合計 107事業+82